



第 23 回 聖路加看護学会学術大会 大会長

野末 聖香 (慶應義塾大学看護医療学部)

総会報告

- 現在会員数 639 名
(2018/9/14 現在)
- 2017 年度会費納入率
67.1%！納入にご協力を!!
- 今後、メーリングリスト開設予定
- 研究助成金額及び申請書の書式検討予定

■第 23 回 聖路加看護学会学術大会を終えて

2018 年 9 月 16 日(日)第 23 回聖路加看護学会学術大会を開催いたしました。265 名の皆様にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加いただいた皆様、企画・準備・運営にご尽力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

本大会では「看護における『聴く、観る、伝える』技術」をメインテーマに、相手の気持ちや思いを聴き、その人全体を観て理解する技術、自分の内面にも目を向け気持ちや考えを伝える技術について学び、議論しました。大会長講演では、アサーションの考え方や関連研究をご紹介し、看護職がアサーティブであることが何をもたらすかについてお話ししました。特別講演では、杉原保史先生から、共感とは何か、共感を深めるために大事なもの、促進・阻害要因について学び、看護のあり方を考えることができました。教育講演では、樋山光教先生から対象のこころのとらえ方における重要な視点やコツを学びました。シンポジウムでは、看護ケアのためのコミュニケーションをどう教え、工夫し、生かすことができるかについて、シンポジストの皆様から具体的な活動を紹介いただき、学び、議論しました。研究発表では多様な興味深いテーマでの発表があり、活発な質疑が行われました。また今大会では、ランチタイムに「聴く・観る・伝える」スキルを学ぶミニ講座を開きました。どの講座も卓越した講師から直接スキルを学べるということで事前参加登録の段階から人気をいただき、熱心にご参加いただきました。

今回の大会が、参加者の皆様にとって、明日からの「聴く、観る、伝える」実践に役立つ学びと交流の場になりましたならば幸いです。

『聖路加での学びが看護のフィロソフィーを創り上げ、基礎的な力をつける場となりました。』

大会長講演は、この言葉から始まりました。

(記事担当: 宮原)



◆特別講演

対人援助における共感の力：昔ながらの素朴な治療要因

京都大学学生総合支援センター 教授 杉原 保史



講演では、「現在はハイテクノロジーの医療が可能となり、患者にはさまざまな介入が可能な時代になった。その一方、『忙しい』看護師が増加し、患者の心に共感する力が低下しているのではないかと。共感に一番大事なことは『ただ一緒にいる』ことであるが、これは難しい技術である。また、対人援助においては、相手の『姿勢』『表情』『声』『視線』『アイコンタクト』に注力し、自らの姿勢や表情、身体で感じていることにも注意を向けることが重要である。」といった興味深い内容を自らのカウンセリングの経験や研究成果を交えて講演されました。看護の忘れかけていた心呼び覚ましてもらえる講演となりました。

(記事担当：中田)

◆特別講演

こころのとらえ方に役立ついくつかのこと

国立病院機構東京医療センター 樋山 光教

『お作法』『ストーリーを紡ぐ』『耳よりな話』の3部構成で、優しいトーンから先生のお人柄が伝わり、穏やかな時間が流れるようなご講演でした。中でも『お作法』として、共感、治療の要素が含まれることに留意、沈黙を守る、陰性感情に耐える、妥当な心的距離についてのお話が印象に残りました。ありのままに、価値判断せず、真摯に思いを受け取り、相手の感情をなぞるような共感をすること、できるだけ口を挟まず、朝顔のツルが伸びる方向へ…という関わりをすること、陰性感情を共に抱えることで対象の負担が減ること、つかず離れずの距離を保ち、医療者が一人で抱え込まないこと等、多くの心に残る言葉をいただきました。最後のスライドでは、学会当日引退となった歌手安室奈美恵さんの写真を出された、樋山先生のお茶目な感じも素敵でした。

(記事担当：宮原)



◆シンポジウム

“看護の技”としてのコミュニケーション

座長 小高 恵実 (上智大学)

学生のコミュニケーション力をどう育むか

佐居 由美 (聖路加国際大学)

家族のこころの病気を伝える絵本を通して

「安心」を届ける

細尾ちあき (NPO 法人ふるすあるは)

がん当事者同士をつなぎ支え合う

馬庭 恭子 (ウイメンズ・キャンサー・サポート)



シンポジストのそれぞれの活動、経験をお聞きした後に、会場との意見交換が刺激的でした。様々な対象と心通わずコミュニケーションをとるため、どのような教育、活動、そして、その根底にある「看護のこころ」を育み、それを具現化し、実践できる環境を整えていくのか…そんなことを自ら問い直す機会になりました。

(記事担当：宮原)





◆ランチタイム・ミニ講座

「聴く・観る・伝える」技術を磨く
アンガーマネジメント

宇佐美しおり(熊本大学)

アサーション・トレーニング

福嶋 好重(横浜市民病院)

マインドフルネス

佐藤 寧子(東京医療センター)

患者の感情表出を促す NURSE の実践

市川 智里(国立がん研究センター東病院)

味覚を刺激されながら、「聴く、観る、伝える」技術を磨くための手法を体感する機会となりました。

「アンガーマネジメント」「アサーション・トレーニング」「マインドフルネス」「NURSE」について、講義だけでなく、ロールプレイや演習を通して学ぶことで、「明日からの看護実践に活かせる」という手応えを感じた方も多かったと思います。

(記事担当:佐々木)

◆卒業研究

2名の方が卒業研究を発表され、1名は在学中の学生として、ゼミでの取り組みの発表をされました。

これからの看護界を担っていく若者たちの初々しい姿が印象的です。そして、その様子を見守る母のような先生方の様子も...

当学会は、このような若き研究者たちの登竜門としての役割も担っていると実感しました。

(記事担当:宮原)



左から高橋翔平さん、武藤ななさん、神戸まりなさん

■第24回聖路加看護学会学術大会のお知らせ

第24回聖路加看護学会学術大会は、2019年9月14日(土)に開催されます。皆様、今からスケジュールにご記入いただき、是非、参加を予定してください。

- ▶会期:2019年9月14日(土)
- ▶会場:聖路加国際大学
- ▶大会長:林 直子(聖路加国際大学)
- ▶テーマ:

Implementation Research-

実践の場に根ざした新たな研究方略の探究(仮)



- ▶ 発行: 2018年10月18日
▶ 編集: 宮原 晴子 中田 諭
佐々木菜名代 松尾 尚美

▶ 連絡先:

聖路加看護学会事務局
〒104-0044

東京都中央区明石町 10-1

聖路加国際大学内

tel 03-3543-6391(代表)

fax 03-5565-1626(代表)

http://slnr.umin.jp/

ニュースレター発行や
様々な情報をメーリングリストで
お伝えします！
未登録の方、再登録の方は
是非ご連絡を!!

◆庶務

2018年6月で理事が交代し、理事会は新たなメンバーで体制になりましたが、庶務担当理事2名は前任が引き続き担当いたします。また2年間どうぞよろしくお願いいたします(新理事は学会ウェブサイトで公開しています)。

2018年4月現在、本学会の会員数は599名です。現在、皆さまとの連絡ツールとしてメーリングリストの作成を計画しております。今一度ご登録のメールアドレスをご確認いただくと幸いです。メールアドレスにあわせて、ご勤務先(所属)、住所等の変更がありましたら、学会事務局にご連絡くださいますようお願いいたします(学会事務局連絡先: slnr@slcn.ac.jp)。

(担当理事 小林 京子、奥 裕美)

■お知らせ

◆学会誌編集委員会

聖路加看護学会誌投稿規程を改定し、「実践報告」を新設しました。聖路加看護学会の会員の強みでもある現場での多様な実践を論文として投稿いただけることを編集委員会では期待しています。投稿は随時受け付けていますが、毎年1月末発刊号(冊子体)は前年5月末まで、毎年7月末発刊号(電子版)は11月末が投稿期限です。冊子媒体の学会誌は現在のところ年1回発刊で、1号、2号合併となっています。

(担当理事 亀井 智子)

◆学術交流委員会

2018年度の学術交流会は「ヘルスリテラシー:健康を決める力」と題して、中山和弘先生(聖路加国際大学・教授)にご講演頂き、開催いたしました。多くの方にご参加を頂き、医療専門職者と医療を受ける側双方の意思決定に役立つ「ヘルスリテラシー」について学ぶことができました。

2019年度「聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金」の募集を行います。詳細につきましては11月以降にホームページに応募要領を掲載いたしますのでご確認ください。皆様のご応募をお待ちしております。

(担当理事: 吉田 俊子)

◆会計

2017年度の会費納入率は67%でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。今年度(2018年)の会費納入がお済でない方は、下記口座にお振込みをお願いいたします。

振込先: 郵便振替口座

口座番号: 00100-8-670371

加入者名: 一般社団法人 聖路加看護学会

来期会計年度は2019年4月1日~2020年3月31日で、会計年度に変更はありません。

(担当理事 中村めぐみ、朝川久美子)

◆編集後記

ニュースレター委員会改め広報委員会として活動を開始し、初めてのニュースレター発行となりました。これまでの歴史を大切にしつつ、当学会の魅力をタイムリーに皆様にお伝えするニュースレターを目指し、今後は年4回、発行いたします。内容についてなど、ご意見をお寄せいただければと思っております。(広報委員会 宮原 晴子 中田 諭 佐々木菜名代 松尾 尚美)

